

当院で肺がんの手術を受けられ、胸膜播種（きょうまくはしゅ）・悪性胸水を伴った非小細胞肺がんと診断された患者様、ご家族様

当院では大阪大学呼吸器外科関連の医療施設と共同で以下の研究を行っています。

研究課題名「胸膜播種・悪性胸水を伴った非小細胞肺癌の治療成績に関する多施設共同後方視的観察研究」

【研究の目的】

肺を包む胸膜（胸腔）にがんが広がって病巣を形成している場合（胸膜播種：きょうまくはしゅ）や胸腔にがんを含んだ胸水（悪性胸水）がたまっている肺がん患者さんは、一般的には手術を行いませんが、画像診断には限界があり、手術をして初めてわかる場合もあり、また、最終的な確定診断には組織や細胞を実際に顕微鏡で診断しなければなりません。このような場合、できるだけ病巣を切除したほうがよいのか、後の治療のために体に大きな負担をかけないため、病巣を切除すべきでないのか、など詳しいことは十分にわかっていません。

そこで、大阪大学呼吸器外科の関連施設で、これまでに肺がんのために開胸手術を受けられて、初めて胸膜播種・悪性胸水が判明された患者さんに対して、実際にどのような治療が行われ、効果はどうだったかということ調べることを目的として研究を計画しました。この研究によって、将来同じような状況の患者さんがおられた場合に、手術をしたほうがいいのか、しないほうがいいのかを決定するひとつの指標になることが期待されます。

【対象となる患者様】

当院ならびに大阪大学呼吸器外科関連施設臨床試験グループ（TSSGO）に参加する施設において2005年（平成17年）1月1日から2014年（平成26年）12月31日の間に当院で肺癌の手術を受けられた患者さんで、術後に胸膜播種（きょうまくはしゅ）・悪性胸水を伴った非小細胞肺がんと診断されたかたが対象となります。当院では約30人、研究全体では約100人の患者さんの情報が登録される予定です。

【研究の実施方法】

患者さんの診療情報を大阪大学呼吸器外科にて収集し、治療法や治療後成績の状態をカルテより調べた結果を解析します。この際、患者登録番号や対応表に従った症例番号を用い、施設のカルテ番号は用いませので、患者さんの個人情報各施設で保護されます。

【利用する情報】カルテの情報、画像診断（レントゲン検査、CT、MRI、PET 検査）、手術の病理検査結果など、すでにある情報を利用します。あらたな検査などは行いません。

【個人情報の取り扱いについて】お名前、住所など患者さんを直接同定できる個人情報は利用いたしません。また、研究成果は学会や学術集会雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用いたしません。

お問い合わせや研究対象となることを拒否される場合は、下記連絡先までお願いいたします。

当院の研究責任者

国立病院機構近畿中央胸部疾患センター

TEL 072-252-3021（代表）

外科 松村晃秀（まつむら あきひで）

研究全体の責任者

連絡先： 大阪大学呼吸器外科 06-6879-3152

研究責任者 教授 奥村 明之進

研究代表者 准教授 新谷 康

なお、この研究は外部の有識者を含む近畿中央胸部疾患センターの臨床試験審査委員会、ならびに研究代表施設の大阪大学医学部附属病院の倫理審査委員会の審査を受け、承認された上で実施しています。